

2013年9月27日

プレ・メディア・コンファレンス

全日本ラリー選手権

出席者

奴田原 文雄	(奴田原 文雄)
佐藤 忠宜	(奴田原 文雄)
勝田 範彦	(LUCK SPORT)
足立 さやか	(LUCK SPORT)
横尾 芳則	(LUCK SPORT)
船木 一祥	(LUCK SPORT)

司 会： 全日本クラス、現在シリーズランキングトップの奴田原・佐藤組、シリーズ第2位の勝田・足立組、そしてJN-2クラスランキングトップの横尾・船木組に来て頂きました。それでは、奴田原組にお聞きしたいと思います。今年のラリー北海道は、レッキをすべて終えたと思いますが、久々のヤムワッカ、ホンベツ・アショロとリバースステージが増えました。ずいぶん雰囲気が変わったと思いますが、コースの状況、イメージをどう感じたかお聞きしたいと思います。

奴田原： 天気も回復してラリー中は多分よい天気が続くだろうと思いますので、気持ちよく走れるんじゃないかと思います。コースが今年久しぶりに使われるヤムワッカとか2日間の2本は逆走ですし、そういう意味では新鮮な気持ちで走れるのかなと思っています。

司 会： ありがとうございます。シリーズも佳境、終盤に入りましてポイント係数がありまして2.5と最大の山場となると思いますが、場合によっては今回で決まってしまう可能性もあると思います。確か5ポイント差をつければ行ってしまうのかなと。

奴田原： ラリー北海道はポイント係数が大きいので、どのみちここを頑張るか頑張らないかでシリーズはいつも決まってしまうと思っています。勝田選手もここが大事なのはわかっているので、多分全開で来ると思うので、頑張りたいと思っています。

司 会： コ・ドラの佐藤選手にお聞きします。今のポイント争いなんですけど、ここで決まる可能性があるとするば、ポイントの計算はできていると思いますので、どんな状況でしょうか。

佐 藤： ここで5ポイント差をつければ勝利ですね。

司 会： デイポイントを含めた5ポイントですね。かなり難しくはなると思いますが、コ・ドラ的には、そういったところはどうでしょうか。

佐 藤： そう作戦を立てたからといってうまくいくわけではないので、トラブルのないようにと思っています。

司 会： コ・ドラから見たラリー北海道のイメージ、ちょっと難しいと思いますが、今から山場は作りようがないかもしれませんが、デイ1、デイ2とステージはいろいろあると思います。どんなイメージと印象を受けましたか。

佐 藤： サツナイ（リバー）で、いきなり夜スタートした場合、あそこでミスするとひっくり返ったりするのかなと。あそこでは無理しないように注意するんですけど、あとは2日目の3ループ、相当、道も荒れると思うし、あと暗くなって走ることになるので、そこもちょっと気をつけたいと思っています。

司 会： ありがとうございます。続きまして勝田選手・足立選手にお聞きしたいと思います。勝田選手、かつてはターマックキング、今もターマックキングなんですが、ここ数年はグラベルでも優勝し、グラベルの速さも身につけてきました。ここは大一番だと思います。今回の勝負に当たった心境、コースのイメージ等お聞きしたいと思います。

勝 田： ポイント的には僕も全然意識していなくて、まずは全力でこの係数の中でラリー北海道を完走することですね。2006年にヤムワッカを使ったんですけど、クレストがあるんですよ。大きい。そこでクラッシュして嫌な思い出があるので（笑）、それはあまり思い出さないようにして、かなりペースノートにコーションをつけました。スローコーションとつけて、それぐらい注意しています。雨ではないようなので、雨でヤムワッカは走りたくないと思ったので楽しみです。

司 会： そういった意味では、今回天気はもちそうなんですが、よいイメージですか。

勝 田： そうですね。やることはやってきましたし、毎年、シェイクダウンしたいんですけど、今年はちょっとやって目を慣らしてきたので最初のスローペースはなくなるんじゃないかと思っています。それだけちょっと気をつけます。

司 会： 足立選手にお聞きしたいと思います。勝田選手自ら言ってらっしゃいましたが、前半スローペース。これが去年・今年の勝田選手を象徴する言葉かと思いますが、その辺の対策は練ってききましたか。

足 立： シェイクダウンに行ってもらったから、そこはもう1本目は終わったと思って、いつも2本目から速くなるので大丈夫だと思います。

司 会： 勝田・足立組にとっては今回、残り2戦のターマックで逆転するためにもラリー北海道はすごく大事なラリーだと思いますが、心境とどういったラリーをしたいかをお聞かせください。

足 立： シーズンが始まる前から、ラリー北海道では1位をずっと取ったことがないので、ラリー北海道には照準を合わせてきているつもりなので、メカニックのみんなもすごく頑張ってくれて、この日のために準備してくれたので、行ける気がしています。

司 会： ありがとうございます。最後に JN-3 クラス現在ランキングトップの横尾選手・船木選手にお聞きしたいと思います。今年はハチロクでターマック、グラベルと好調でどちらとも優勝して、JN-3 クラスはあっという間に主力がハチロク BRZ が主力の車になったと思うのですが、このFRで迎えるこのラリー北海道をレッキを終えた時点でどのように思われますか。

横 尾： 僕自身、ラリー北海道は初めてなんですけど、想像していた以上にいろんなタイプの道が入り交ざっていて、正直、どこに照準を絞ろうか決めかねているんですけど、ハイスピードなコースはハチロクにとっては得意な道なんで、そういうところで稼いで、危ない道が悪いところは押さえながら丁寧に攻めていきたいと思っています。

司 会： 初めてのラリー北海道、レッキを行った時点でここはしびれるなと思ったところがありますか。

横 尾： そうですね。全体的にどこにもハイスピードな区間がところどころありますが、やはりホンベツの途中の800メーターのストレートがあるところとか、あのコーナーなんかはちょっと加速域的にグラベルで経験がない加速域なので、そのところがここじゃなければ経験できない道だと思うので、非常に楽しみです。

- 司 会： 昨年は同じハチロクで三好選手がこのラリーで優勝しまして、今年はその三好選手がいますし、鎌田卓麻選手がBRZ、粟津原選手、とハチロク BRZ が車同士のライバルが多いと思いますが、横尾選手自信はライバルと思っている選手はいますか。
- 横 尾： 僕の個人の主観ですけど、三人三様、ほかのドライバーを含めてかなり個性が違うので、それは車の動かし方だったり、ドライビングスタイルであったり、当然、ライバルたちは速いですから、僕は自分の得意なところというか、好きなところでしっかり稼いで頑張っていきたいと思います。
- 司 会： それでは船木選手にお聞きします。シリーズポイントでいいますとライバルは香川選手に絞られてきたかと思います。中盤に向けて。その香川選手とは昨年コンビを組んでいたりと、いろいろ手の内を知っていると思います。このラリー北海道、もちろん優勝をめざしていると思いますが、シリーズを考えるといろんな作戦があると思いますが、どのようなイメージでいらっしゃいますか。
- 船 木： ここのラリーってシリーズとか考えたら逆に走れないと思うので、まずここのラリーって「道の上にちゃんといよいよ」というそれさえちゃんとできれば、結果は多分あとからきつついてくると思います。横尾選手も（ラリー北海道は）初めてなので、あまりシリーズとかを意識しないでフィニッシュまで車を持っていくところを考えて今回はやりたいです。